

St.Mary's College Campus Letter

# MADONNA

聖マリア学院大学キャンパスレター〔マドンナ〕

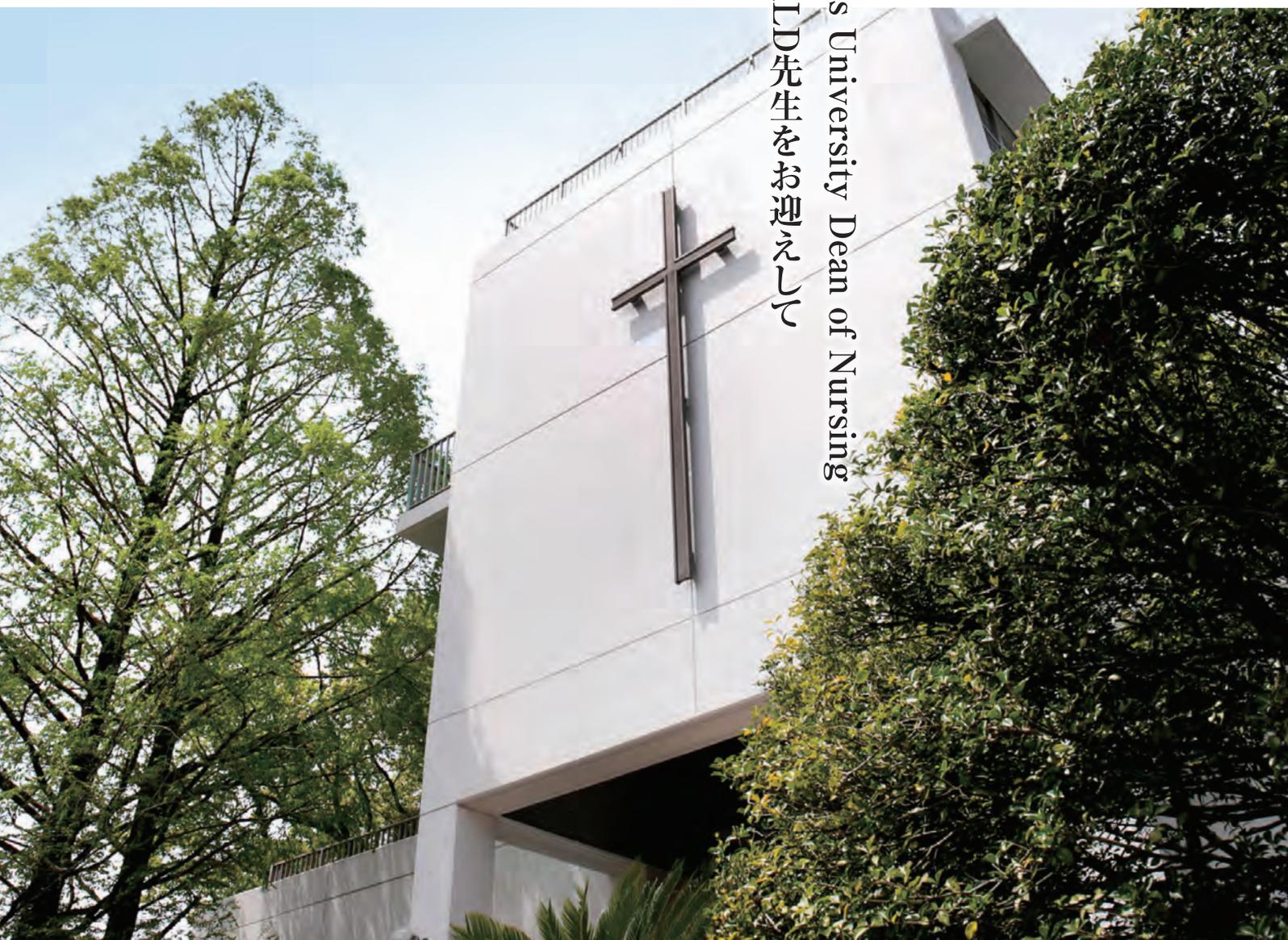
特集

Mount Saint Mary's University Dean of Nursing  
LEAH FITZGERALD先生をお迎えして

Vol.

21

2019.9



# 高山右近が眠る Novaliches イエズス会修練院

フィリピンの2つの姉妹大学訪問とマニラのWHO西太平洋事務局長訪問の機会があったので、高山右近が眠るケンソ市のNovalichesに在るイエズス会の修練院を訪問することが出来た。

戦国時代の著明な、敬虔なキリシタン武将であり、列福され福者となったので、存知の方も多であろう。信長や秀吉に対して城主の地位を捨てて信仰を守った。関ヶ原後は、キリシタンの結集を恐れた為か家康より呂宋(フィリピン)追放となった。マニラでは大歓迎を受けるも間もなく当地にて没し(その後は同行した内藤如安が代替する)、大聖堂に埋葬される。先の戦災で大聖堂や墓地も破壊され、同地に埋葬されていた歴代の西洋人の司教様方の遺骨と共に、高山右近の遺骨も内藤如安の遺骨と共に、このNovalichesのイエズス会修練院の墓地に埋葬されたとされる。先の列福の際には、日本から司教団も参列され当地でミサが捧げられた。

念願の高山右近や内藤如安の遺骨埋葬地を訪れ、興奮冷めやらぬ中、修練院長の住田省吾神父様とお話し出来て光栄でした！



学長 井手 三郎



1 高山右近と内藤如安の遺骨が他の西洋人司教様方の遺骨と共に埋葬されている 2 Novalichesに在るイエズス会の修練院 3 Novalichesのイエズス会の修練院長・住田省吾神父様(右) 4 マニラの大聖堂。右近はマニラ入城後すぐ傍に在る大聖堂に迎えられた 5 右近がマニラ上陸後に入城した門 6 高山右近が眠る墓地(イエズス会の修練院裏の敷地にある)

目次

1 巻頭言

高山右近が眠る  
Novaliches  
イエズス会修練院

3 特集

Mount Saint Mary's University  
Dean of Nursing  
LEAH FITZGERALD先生をお迎えして

5 CAMPUS TOPICS

● 平成30年度  
アメリカ研修旅行のご報告  
● Saint Louis Collegeより看護研修に来日  
● Roy Academia Nursology Research Centerが海外のブログで紹介されました

9 お知らせ

● 令和2年度入試日程  
● 財務状況等の公開

## 聖マリア学院大学の教育理念

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。



## 聖マリア学院大学の教育の特色

- 「人間の尊厳・生命を尊重する倫理、生命倫理教育」による倫理的判断能力／専門職としてのケアリング/ヒューマンケアの実践能力の育成
- シスター・カリスト・ロイ博士提唱の「ロイ適応看護モデル」に基づく科学的思考と問題解決能力の育成
- 聖マリア病院とともに長年の国際保健医療協力で連携して実践している「国際看護学」の教育

マドンナ Vol.21  
MADONNA



# Mount Saint Mary's University Dean of Nursing LEAH FITZGERALD先生をお迎えして

Roy Academia Nursing Research Center センター長  
日高 艶子  
(聖マリア学院大学 看護学部・大学院看護学研究科 教授)



講演中のLEAR FITZGERALD氏

2019年5月28日に本学の姉妹校であり、ロイ適応看護モデルの発祥の地であるLOS ANGELES Mount Saint Mary's Universityの看護学部長であるLEAH FITZGERALD先生をお招きして、講演会を開催いたしました。

講演は“Cross Program Use of The ROY ADAPTATION MODEL”と“Using Informatics to Screen and Risk Stratify Populations: A Teaching Platform for Nurses in a Community Setting”の講演が行なわれました。最初の講演は、Mount Saint Mary's CollegeのCarondelet Saint Joseph Sisterたちによって設立され、カトリックの



愛の精神を基盤に教育がなされてきたこと、看護学部のカリキュラムは、ロイ適応看護モデルが重要な位置を占め、教員は、倫理や臨床教育にロイ適応看護モデルを統合する責任があることをお話されました。

次の講演では、看護師がロイ適応看護モデルに基づくアプリケーションを開発し、地域住民の健康状態の把握に活用した事例について紹介されました。

Mount Saint Mary's University 看護学部におけるロイ適応看護モデルに基づく教育はシスター・カリスト・ロイによってモデルが開発された1960年代より導入され今もなお、モデルを基盤としたカリキュラムの開発が行なわれていることが伺えました。また、LEAR先生は、学生はロイ適応看護モデルの提唱者であるシスター・カリスト・ロイ自身からロイ適応看護モデルを学ぶ機会があるということが重要なことであり、ロイ適応看護モデルはここに生きていると感じると

お話されました。

本学においても、建学の精神に適合するロイ適応看護モデルを短期大学の時代から導入して30年余りが経過しました。誰もがロイ適応看護モデルがここに生きていると感じることができ、るようにロイ適応看護モデルの教育プログラムへの統合を研鑽して参りたいと思います。





セントジョセフ病院中庭の壁画前で



セントジョセフ病院外観



セントフランシスヘルスケアシステムにて

平成30年度  
アメリカ研修旅行のご報告

平成30年度のアメリカ研修旅行に参加し、オレンジ郡子ども病院、セントジョセフ病院、姉妹校であるマウントセントメリーズ大学、セントフランシスヘルスケアシステムを訪れました。現地では、事前学習でも気づかなかったことに気づくことができ、知らなかったことを新しく学ぶことができました。また、看護理論家のロイ先生と直接お話しする貴重な体験も出来ました。

そのほか、研修中には、日本とは異なる文化や習慣、また考え方など、自身の経験として学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことも出来ました。

今回の研修で学んだことを、次の学修で生かしていきたいと思えます。

田畑 美紀

マウントセントメリーズ大学  
(ドヒニーキャンパス入り口)



シスターカリスター・ロイ先生と



マウントセントメリーズ大学にて(施設見学)



マウントセントメリーズ大学(シャロンキャンパス)にて

■ 研修スケジュール (2019年3月17日~24日)

1日目/3月17日	日本出国 ロサンゼルス到着
2日目/3月18日	【研修】オレンジ郡子ども病院・セントジョセフ病院
3日目/3月19日	【研修】マウントセントメリーズ大学
4日目/3月20日	ロサンゼルスより移動 ホノルル到着
5日目/3月21日	【研修】セントフランシスヘルスケアシステム
6日目/3月22日	自由行動
7日目/3月23日	アメリカ出国
8日目/3月24日	帰国

Saint Louis Collegeより看護研修に来日

2019年5月12日より7日間、海外協定校であるタイのSaint Louis College看護学部より教員と学生2名が、本学での研修のため来日されました。Saint Louis Collegeはタイの首都バンコクにある看護学部、理学療法学部、心理学部を持つカトリック系の大学で、同大学より今回初めて研修生をお迎えすることとなりました。

研修生は本学での講義受講のほか、久留米市保健所ならびに聖マリア病院、社会福祉施設メンマリアでの研修に参加しました。

5月13日には本学学生との交流会が実施され、同じ看護を学ぶ学生どうしの国際交流の良い機会となりました。



Roy Academia Nursology Research Centerが  
海外のブログで紹介されました

本学客員教授で著名な看護理論分析家、ジャクリン・フォーセット先生のブログに、本学の附置研究所「ロイアカデミア看護学研究センター(Roy Academia Nursology Research Center)」についての紹介記事が掲出されています。

ブログでは、「—聖マリア学院大学は、世界中で初めて「Nursology」という単語を、大学のリサーチセンターの名称に掲げた—(日本語要約/抄)」と紹介されています。

今後も、ロイ適応看護モデルの検証を通して、看護専門職者の育成を目指して参ります。



ロイアカデミア看護研究センター



ロイアカデミアホール

ジャクリン・フォーセット先生ブログ(Dr. Jacqueline Fawcett University of Massachusetts Boston)  
<https://nursology.net/2019/06/11/who-is-the-first/#comments>

ともべんサポーター

### 学年を超えた仲間づくり 「ともべんサポーター」の活動

今年度、学修支援室では学年枠を超えて、共に勉強する仲間づくりを行っています。グループによる学修会を開き、そのリーダーとして学修会を運営してくれるのは、学内公募で決定した29名の「ともべんサポーター」の皆さんです。現在、ともべんサポーターが主導して、放課後などに学生ラウンジ（3号館2F）で学修会が実施されています。各グループが、それぞれのテーマで学修を進めており、疑問点や大切なポイントなどについてディスカッションしています。学生ラウンジは開かれています。講義や実習での悩みや質問をぜひ聞かせてください。参加資格はありません。まずは一度来てみてください。



#### 学生からの意見の一部をご紹介します

- 学年を超えた繋がりができた。
- 国家試験の対策になっている。
- 人に教えることで自分自身の理解が曖昧な部分があった。
- 実習での情報を聞くことができた。

2019年度入学式

### 平成最後の入学式

平成31年4月4日（木）、桜が舞い散る中、平成最後の入学式が執り行われ、看護学部看護学科111名、大学院看護学研究科5名、専攻科助産学専攻15名の新入生を迎えました。4月19日（金）には、新入生歓迎会が実施され、新入生と先輩学生、教職員が交流を深めました。



東北ボランティア2019春

### 被災地の「今」を知る 東北ボランティアに参加して

いろいろなことを経験して視野を広げたいと今回の東北ボランティアに参加しました。現地を訪れ、震災遺構を目の当たりにしたとき、ここで起こったことの恐ろしさを感じました。また、震災発生時、避難に対する判断の違いが生死の分かれ目になったお話を聞いて、判断の重要性を重く受けとめました。現地の景色を見て、現地の方々と触れ合う中で、普通に家族と一緒に過ごせて毎日普通に食事ができ、この当たり前のような自分たちの日常はとても幸せでありがたいことなのだ、と改めて実感しました。

ボランティアに参加して、震災のことを忘れずこれからも伝えていかなければならない、現地の「今」をもっと伝えなければならぬという思いをより一層強くしました。

衛藤舞／前田彩沙

日程 3月26日（火）～3月30日（土）  
滞在先 カリタス南三陸へス  
（カトリック教会関連の社会活動団体）  
ボランティアの内容 ワカメの仕分け作業 傾聴等



衛藤さんと前田さん。ワカメの出荷作業をお手伝い中



東日本大震災遺構として残されている宮城県気仙沼向洋高校の校舎内の様子。被災した当時のまま



南三陸町の人が浮き玉で作った浮き玉アート

海から離れた山手の方まで流された車。津波の凄まじさを物語っている



学生広報委員のご紹介

### 私たちが 学生広報委員です

本年度の学生広報委員です。学生目線で、学生生活のなかでのあれこれをSNS（大学公式FacebookやInstagram）などを活用して情報発信していきますので、どうぞよろしくお願いたします！



財務状況等の公開（平成30年度決算の概要）



学校法人聖マリア学院 平成30年度決算〔平成30年4月1日～平成31年3月31日〕

「貸借対照表」の概要

貸借対照表 平成31年3月31日現在(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
<b>資産の部</b>			
固定資産	4,298,445	4,266,319	32,126
流動資産	2,193,703	2,168,840	24,863
<b>資産の部合計</b>	<b>6,492,148</b>	<b>6,435,159</b>	<b>56,989</b>
<b>負債の部</b>			
固定負債	220,111	189,436	30,675
流動負債	182,162	192,215	△10,053
<b>負債の部合計</b>	<b>402,273</b>	<b>381,651</b>	<b>20,622</b>
<b>純資産の部</b>			
基本金	6,319,426	6,261,906	57,520
第1号基本金	6,026,226	5,988,706	37,520
第2号基本金	120,000	100,000	20,000
第3号基本金	101,200	101,200	0
第4号基本金	72,000	72,000	0
繰越収支差額	△229,552	△208,398	△21,154
<b>純資産の部合計</b>	<b>6,089,874</b>	<b>6,053,508</b>	<b>36,366</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>6,492,147</b>	<b>6,435,159</b>	<b>56,988</b>

「事業活動収支計算書」の概要

事業活動収支計算書 (単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
教育活動収入	979,217	教育活動支出	948,392
教育活動外収入	3,940	教育活動外支出	0
特別収入	1,998	特別支出	396
		予備費	-----
<b>事業活動収入</b>	<b>985,155</b>	<b>事業活動支出</b>	<b>948,788</b>
		基本金組入前当年度収支差額	36,367
		基本金組入額合計	△57,520
		当年度収支差額	△21,153
		前年度繰越収支差額	△208,398
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△229,551

学校法人会計について

学校法人は、公益性をもった教育研究の実践主体として、学校の経営を行うことを、その目的としておりますので、一般企業のように営利を活動目的とする法人ではありません。よって、人材育成を含めた教育研究活動の成果を、社会に還元還元させる義務を負っています。

学校の経営に伴う経理処理については、学校法人会計基準(文部科学省令)により定められており、主要な財務計算書類として「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」及び「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

■資金収支計算書

前年度繰越支払資金2,057,808千円を合わせた収入は、3,140,555千円となり、諸々の支出を差し引き、翌年度繰越支払資金として、2,181,767千円を計上いたしました。

■事業活動収支計算書

事業活動収入計〔従前の帰属収入〕が、985,155千円、事業活動支出計〔従前の消費支出〕が、948,788千円となり、単年度の収支として、36,367千円となりました。基本金組入額(学校法人として、教育研究内容の将来的維持・充実に必要な資金を継続的に保持するための資金)として、57,520千円を計上し、結果、当年度収支差額として、△21,153千円となりました。

■貸借対照表

資産の部は、流動資産等の増加により前年度比56,989千円増の6,492,148千円となりました。また負債の部は、前年度比20,622千円増の402,273千円となりました。その結果、純資産が前年度比36,366千円増の6,089,874千円となっております。

「資金収支計算書」の概要

資金収支計算書 (単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生納付金収入	784,380	人件費支出	547,531
手数料収入	11,500	教育研究経費支出	172,461
寄付金収入	31,230	管理経費支出	69,525
補助金収入	120,563	設備関係支出	35,162
資産売却収入	100,000	資産運用支出	128,000
付随事業・収益事業収入	8,052	その他の支出	40,413
受取利息・配当金収入	3,940		
雑収入	22,730		
前受金収入	141,739	予備費	-----
その他の収入	22,351		
資金収入調整勘定	△163,738	資金支出調整勘定	△34,304
前年度繰越支払資金	2,057,808	翌年度繰越支払資金	2,181,767
<b>収入の部合計</b>	<b>3,140,555</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>3,140,555</b>

※作表上、端数調整箇所あり。 ※財務状況については、大学のホームページ(<http://www.st-mary.ac.jp/disclosure/>)でも公開中。

令和2年度入試日程

聖マリア学院大学



①看護学部看護学科  
[出願期間・試験期日他]

入試区分	出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
推薦入試〔公募制前期〕	令和元年11月 1日(金)～11月 7日(木)	令和元年11月16日(土)	令和元年12月 2日(月)	令和元年12月16日(月)
推薦入試〔指定校〕				
推薦入試〔系属校〕				
学士・短期大学士入試				
社会人入試				
推薦入試〔公募制後期〕	令和元年12月 2日(月)～12月12日(木)	令和元年12月21日(土)	令和2年 1月10日(金)	令和2年 1月22日(水)
一般入試	令和2年 1月 6日(月)～1月28日(火)	令和2年 2月 9日(日)	令和2年 2月18日(火)	令和2年 3月 2日(月)
センター試験利用入試(前期)	令和2年 1月20日(月)～2月 4日(火)	令和2年 2月19日(水)	令和2年 2月28日(金)	令和2年 3月12日(木)
センター試験利用入試(後期)	令和2年 2月17日(月)～3月 3日(火)	令和2年 3月10日(火)	令和2年 3月12日(木)	令和2年 3月23日(月)

②専攻科助産学専攻  
[出願期間・試験期日他]

入試区分	出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
推薦入試	令和元年 9月9日(月)～令和元年 9月19日(木)	令和元年 9月28日(土)	令和元年10月 9日(水)	令和元年10月21日(月)
一般入試(前期)	令和元年10月3日(木)～令和元年10月17日(木)	令和元年10月26日(土)	令和元年11月 6日(水)	令和元年11月19日(火)
一般入試(後期)	令和2年 2月3日(月)～令和2年 2月13日(木)	令和2年 2月22日(土)	令和2年 3月 3日(火)	令和2年 3月16日(月)

※一般入試(後期)は、状況により実施しない場合があります。実施の可否につきましては、令和2年1月17日までに本学ホームページで発表します。

聖マリア学院大学  
大学院  
看護学研究科  
(修士課程)



①大学院入試  
[出願資格認定審査申請期間]

入試区分	申請期間
秋期(一般、社会人)	令和元年9月 2日(月)～9月13日(金)
春期(一般、社会人)	令和2年1月 6日(月)～1月16日(木)

[出願期間・試験期日他]

入試区分	出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
秋期(一般、社会人)	令和元年10月3日(木)～令和元年10月17日(木)	令和元年10月26日(土)	令和元年11月6日(水)	令和元年11月19日(火)
春期(一般、社会人)	令和2年 2月 3日(月)～令和2年 2月13日(木)	令和2年 2月22日(土)	令和2年 3月3日(火)	令和2年 3月16日(月)

## 教務課・学生課からのお知らせ

### 在学生、並びにご家族のみなさまへ

#### ■ 教務課からの各種お知らせについて

在学生並びにご家族の方に対し、授業の出席状況や単位認定試験の結果(再試験対象となる科目の有無)、成績通知書等をお届けしております。学生の皆さんにとっては既に周知の内容もあるかと思いますが、ご家族の皆さまにとりましても、大学生活や学修に関する情報を共有するものとして活用いただければ幸いです。

#### ■ 「保健師」国家試験受験について (保健師コースの履修について)

本学では、2012年度入学生より「選択制」となっております。保健師国家試験の受験資格を得るためには、看護学部卒業に必要な単位数に加え、3年次以降に開講される「公衆衛生看護学」に関する所定の科目の単位を修得する必要があります。保健師コース履修を希望する場合は、2年次後期に申込み手続きを行い、学内選考により履修者を決定します(学生の皆さんには選考試験の概要については既に説明を終えています。選考日等詳細については12月頃に説明の予定です)。なお、保健師コース履修には、課程履修費として、別途80,000円が必要になります(平成29年度履修者より適用)。

#### ■ 大学での履修について

科目の履修に際しては、特定の科目については履修要件があることや(※)、上級学年に進級するための要件(進級要件)があること、卒業までに要する科目や単位数(卒業要件)が定められていることなど、予め知っておくべき重要な事項があります。これらは、年度始めに配布する「履修の手引き」に明記されていますので、学生の皆さんは、履修ガイドランスに参加することはもちろんですが、自ら履修に関する情報を収集し、把握するように努めることも必要です。なお、カリキュラム改正等に伴い、履修に関する諸規程も改正となることがあります。入学年度によって適用する規程が異なることがありますので、不明な点が生じた場合は教務課へお尋ねください。【※:基盤臨床系科目や各論実習科目を履修するためには、各々の科目の履修要件(例:科目Bを履修するためには科目Aの試験に合格していることが必要)などを満たす必要があります。】



### 本学の奨学金制度について

詳細につきましては学生課までお問い合わせください。

☎0942-50-0222

特待奨学金	子弟等奨学金
金額:50万円または20万円 返還義務:なし 採用人数:若干名	金額:入学金相当額の半額 返還義務:なし
緊急時奨学金	雪の聖母会聖マリア病院 聖マリア奨学金
金額:当該学期の学納金相当額を上限 返還義務なし 採用人数:若干名	金額:年間の授業料相当額を上限 返還義務:卒業時に一括返還※ 貸与期間:修業年間を上限 採用人数:若干名

※聖マリア病院へ就職した場合は、給与より返還

#### 編集後記

編集後記の執筆に際し、掲載記事を読んで、ふと「各催事や取組み、それ自体が目的となっていないだろうか?」と改めて考えさせられた。言うに及ばず、それは本学における体系化されたカリキュラムや修学指導の環として、学生全体への教育的還元を目的とした、そのための手段や方法となるべきものである。

例えが不適切とお叱りを受けそうに恐縮だが、世界が認める日本製品の強みは、企業の徹底した品質管理にある。では、大学にとつての品質管理とは、やはりその対象は学生個人々々であつて、入学してきた学生を如何に鍛えて、付加価値化を行い社会に送り出すか?つまりは、在学中の様々な働き掛けを手段として、その目的である卒業時の成果や結果に責任を持つことが大学の使命、役割であると思つてゐる。

少々、厳しいこと言つたりすることもあるけれど、冷たい態度と思われることもあるかもしれないけれど、学生諸君、このようなことなので、どうかご勘弁を。

(K・i)

**St. Mary's College**  
聖マリア学院大学

